

No. **21** 号
2021年7月号
(令和3年)

ひらつかの風

ひらつか市民活動センターは、さまざまな分野の市民活動団体やボランティアなどで活動されている人たちが、これから活動しようとしている人たちを応援します。

CONTENTS

- P.1 ……平塚市情報「協働事業報告会開催報告」
- P.2 ……団体レポート『里山をよみがえらせる会』
- P.3 ……お役立ち情報
- P.4 ……センター情報

団体
レポート

美しい里山を守り育てる 『里山をよみがえらせる会』



平塚市情報

令和2年度実施 協働事業報告会を開催しました!

令和3年5月12日(水)に令和2年度に実施された協働事業の報告会を開催しました。協働事業に興味のある方は、平塚市協働推進課までお問い合わせください。

令和2年度実施市民提案型協働事業

- ①『NPO 法人MAMA-PLUG × 災害対策課』
「アクティブ防災」で作る、手をつなぎたくなる街平塚の防災力強化プロジェクト
- ②『NPO 法人ぜんしん × 中央図書館』
図書館におけるボランティア体験を通じた不登校・ひきこもり改善・自立支援事業
- ③『NPO 法人フードバンクひらつか × 環境政策課』
平塚市食品ロス削減事業並びに相対的貧困解消事業

令和2年度実施行政提案型協働事業

- ④『ひらつか生物多様性推進協議会 × 環境保全課』
平塚市生物多様性保全推進事業
- ⑤『ひらつか着地型観光推進委員会 × 商業観光課』
着地型観光プログラムの開発とイベントの周知及び実施



YouTube
公開中!

実施された協働事業の内容等は [こちら](http://www.city.hiratsuka.kanagawa.jp/kyodo/page-c_02194.html)

団体
レポート

『里山をよみがえらせる会』

『里山をよみがえらせる会』は、『里山を守り育てよう』と平塚市土屋の地元有志の方を中心に平成12年に発足しました。

今号のひらつかの風は、創立20周年を迎えられた「里山をよみがえらせる会」を訪ね、会長の荒井啓三さんにお話を伺いました。

■里山をよみがえらせる会とは？

高度経済成長以前の家庭エネルギーは、里山から得られる薪や木炭でした。里山は、地域の人たちが深く関与して、はじめて美しい自然風景が維持されます。燃料を採る必要が無くなった里山は、荒れ放題になってしまいました。

発足後、初代会長の意志を受け継ぎ、平成25年に荒井さんが会長となり、「里山を昔の姿によみがえらせ、かつて私たちが里山で遊んだ子ども文化を未来に残そう」という想いを胸に、今日まで活動されてきました。



▲里山をよみがえらせる会の皆さん

■3年かけて谷戸田(棚田)を作る

創立より10年間は主に、雑草に覆われてしまった雑木林を草刈りする等、荒れた山林の整備と並行して、子どもたちの遊び場作り(竹のブランコ・丸太のシーソー・ツリーハウス)、アシヤオギの繁茂する休耕田の田んぼ作りを行いました。田んぼは、山あいにも流れる沢を利用して谷の部分の『谷戸田』という棚田を3年かけて、復活させたそうです。その苦勞の甲斐があって里山の自然に親しむことを地域の子どもたちに提供することが出来ました。

その後は、田んぼの拡大を進めながら、平成17年より「本物の自然で遊ばせませんか？」と市内の小学校、幼稚園、保育園などに呼びかけ、平成31年には28団体2,416名もの子どもたちが里山での遊びを体験するまでに広がったそうです。

■子どもたちが田植えに初挑戦！

令和3年5月22日、平塚市環境保全課との協働で実施している『市民と大学生による里地里山再生プロジェクト』の第1回目「谷戸田の田植え」取材しました。コロナ禍の影響で2年ぶりに市民の参加者を迎えての田植えは、100名以上の応募者の中から抽選で選ばれた19名の皆さんが参加されていました。

会員の方より「3~4本に取り分けて、深く植えないことがポイントです」とコツを教わった子どもたちが田んぼに入っていきます。「ぬかるみ」の独特な感触に「わあ!」「きゃ〜!」と歓声を上げていました。最初は泥に足を取られて動きにくそうにしていたのですが、すぐに慣れて上手に植え付けを行いました。

田んぼに入って苗を植え、これからは手間暇をかけて稲が成長していくのを見守っていきます。子どもたちはその成長過程を肌で感じ取る貴重な体験の第一歩となったことでしょう。



「“手”で田植えをさせてくれる所は、なかなか無いので嬉しいです。そして地域の方々とも話せるので、楽しいですね。子どもたちは蛙とりに夢中です!」

「広報ひらつかを見て参加しました。田植えは3回目の参加です。実は今年から家族で『里山をよみがえらせる会』の会員になったんです。色々な活動に参加できるのが楽しみです!」



■20周年を迎えて

荒井さんは「今では活動の参加者は、団体である私たちより市民の皆さんの人数の方が多くなりました。これが20年間の活動の何よりの成果ですね。若い世代に『昔ながらの古き良き里山』を知ってもらい、そしていつか担い手になってくれることを願っています。」と話されました。

20年間歩んできた「里山をよみがえらせる会」の様々な企画やその活動、里山の自然に、皆さんも足を運んでみてはいかがでしょうか？

ホームページ ◆

里山をよみがえらせる会

検索!

お役立ち
情報

団体(組織)のコミュニケーションを 高める(組織内の合意形成)

ひらつかの風 20号で「ボランティアの受け入れで大切なこと」と題し、団体活動に欠かせない「ボランティア」とその受け入れの「コツ」についてご紹介しました。

しかし、いざボランティアを受け入れようとした時、組織内でのコミュニケーションが不足し、コンセンサス(合意形成)が取れていなかったら、ボランティアさんは戸惑ってしまいます。

そこで今回は「団体(組織)内のコミュニケーション」について取り上げてみました。



団体の目標を達成するために重要なのは、組織と個人との共通の目的です。組織が持つ目的と自分の目的が合致するかどうかは大切な視点です。合意形成がなされていないと、自分がどのように貢献できるかが判断できなくなってしまう恐れが出てくるからです。この場合の合意形成とは、誰かが「これをやろう」と意思決定したものを、全体で話し合い「合意」を取り付けることを言います。

それではそもそも何故コミュニケーションが必要なのでしょう? そんなものは必要ないと考える人もいるかもしれませんが、コミュニケーション活性化のメリットを理解するとわかりやすいかもしれません。

コミュニケーションが活性化するメリット



1 円滑な人間関係を築くことができる

いつも緊張した環境より最低限のマナーを守った上で、和やかな雰囲気での活動ができると人間関係を良好に保つことができます。



2 スムーズに情報を伝達・共有できる

情報を正確に伝達し、メンバー間の意思疎通を図ることが重要ですが、円滑なコミュニケーションこそが共通の目的の理解を深め、協働のモチベーションも高まります。



3 業務効率が向上する

コミュニケーションが活性化していれば、誰が・いつ・どこで・何をしているかが分かりやすくなり、一人で解決できない事が発生しても早期に解決することができます。



4 組織への愛着が高まる

楽しく前向きに向き合える環境を作ることによって、「居心地の良い場所」と感じてもらうことができれば、愛着も深まります。



合意形成のポイントをまとめてみました



1 情報共有

情報には客観的な事実や各個人の意見など、さまざまなものがあります。情報はできる限りオープンにし、みんなが理解できるようにしましょう。



2 多様な意見を認める

個人にはいろいろな立場、社会的背景、心情などがあり意見が違って当たり前です。まずは、それらを許容し、肯定する事から始めましょう。



3 お互い納得できる解決策を協働で見出す

合意形成で一番問題が出るのは、二者択一で物事を決めなければならない時です。このような場合、ひとつ違った視点から考えると、その両方の案を取り入れた案が浮かび上がったりします。そのプロセスの中で、自分が参画しているという実感が持てるようになります。そこから見出された解決策は、より実効性が高いものとなるでしょう。



最後に

NPO法人や市民活動団体という組織は、多様な人々が集まって活動しています。そのため「相手を思いやること」「相手の立場に立って考えること」が、コミュニケーションを図る上で最も大切なこととされています。聴き方や伝え方にも工夫が必要です。コミュニケーションを豊かにし、風通しのよい組織をつくって楽しく活動していきましょう。

センター情報

● 団体活動にお役立てください!

まちづくりミーティング「つながろうママたち 子育ても・ビジネスも・自分らしく生きたい!」

子育て中の若いママたちの『出会いとつながり』をサポートする「ママぎゅっと」のお二人をゲストに迎えます。
自分らしく生きたいママたちの想いを実現する方法を一緒に探しながら、ママ同士の交流を深めます。



- 日時 ● 7月31日(土) 13:30～15:30
- ゲスト ● ママぎゅっと 宇佐美陽子さん、長谷川あい子さん
- 会場 ● ひらつか市民活動センター
- 対象 ● 何かを始めたい、または既に活動を始めている子育て中のママ
- 定員 ● 会場参加15名 ZOOM参加10名 参加費 ● 無料

市民活動応援講座「市民活動とSDGs」

NPO/市民活動も「SDGs」に深く関わっています。どのように関わっているか、カードゲームを通じて知っていただくと共に、SDGsが目指す持続可能な開発目標に向かって連携・推進するきっかけとします。



- 日時 ● 8月21日(土) 14:00～16:30
- 講師 ● 一般社団法人 SISA 代表 /SDGs 湘南ネットワーク 小野 利隆氏
- 会場 ● ひらつか市民活動センター
- 対象 ● NPO 法人・市民活動団体
- 定員 ● 25名 参加費 ● 無料

NPO@リレートーク第4回「時を超え 所を越えて 助け合い」

人生100年時代。社会と人に尽くす喜びを”生きがい”として「生涯現役」を合い言葉に、困ったときはお互い様で、共助の仕組みでネットワークを広げる NALC 湘南ブロックの棟保さんをゲストに迎えます。

- 日時 ● 8月22日(日) 14:00～15:30
- ゲスト ● NPO 法人ニッポン・アクティブライフ・クラブ (NALC) 湘南ブロック 棟保 禎彦さん
- 会場 ● ひらつか市民活動センター
- 対象 ● NPO 法人・市民活動団体・関心のある市民
- 定員 ● 10名 参加費 ● 無料



※いずれのイベントも感染対策を充分にとり実施いたします。

編集後記

【お知らせ】

6月18日(金)、15団体18名の皆さんにお集まりいただき、ひらつか市民活動センターまつり実行委員会を発足いたしました。今後は、社会状況を見据えながら実行委員の皆さんと共に企画内容を検討してまいります。※参加団体募集については後日改めてご案内する予定です。

◆ 第16回ひらつか市民活動センターまつり ◆ 11月28日(日) 予定



編集・発行

ひらつか市民活動センター

(開館時間 9:00～22:00 年末年始、施設点検日を除く)

〒254-0045
 神奈川県平塚市見附町1-8
 TEL ● 0463-31-7571 FAX ● 0463-35-6601
 Eメール ● info@hiratsuka-shimin.net
 URL ● http://hiratsuka-shimin.net

センター登録団体数 (2021年6月15日現在)
 登録団体数 ● 479 団体
 (内訳 市民活動団体…332 団体、一般団体…147 団体)

